

Vol.3 小川香料について

OGAWA
Flavors & Fragrances

常に必要とされる「香り」をクリエイトする！ それが小川香料です

今や、現代社会には欠かせない香料ですが、それを生産する香料会社は、国内だけでも数多くあります。その中でも常に業界をリードしてきた小川香料。その魅力について皆さんにご紹介します。



■営業部門■

小川香料の開発する製品(=香料)はすべてオーダーメイド品。

『香り』という感覚・抽象的なものを適切な言葉に置き換えながら、お客様の意図をいかに具体的に把握し、具現化するかが営業のもっとも大きな役割です。しかし、単に言われる通りのものを製品化するだけではありません。お客様と“協同で開発する”という信念のもとに、『香り』のプロとしての「提案」を行っています。こちらから消費者に“仕掛ける”という意識を常に持っているのです。

必要なのは、めまぐるしい変化に対応できる「対応力」、お客様の要望を汲み上げ、さらにその一歩先を行く提案ができる「コンサルティング能力」、常に香りのトレンドを敏感につかむ「情報力」の3つのスキル。

小川香料の営業スタッフは『香り』のコンサルタントでありプロデューサーです。

■研究部門■

『香り』は形のない芸術品。だからこそ、豊かな感性が要求されます。

同時に科学的な視点と化学知識、技術がなくては『香り』づくりは成り立ちません。小川香料の研究スタッフは、常に感性を磨き、クリエイターとしてのこだわりを持ちながら、研究活動を行っています。

小川香料の研究開発は、食品の香料だけでなく食品そのものをも扱う「フレーバー研究開発部」、化粧品や日用品などの香料を扱う「フレグランス研究開発部」、香料素材全般の総合的な研究や機能性に関する研究を行う「素材技術研究所」、「健康素材研究所」の4つの研究所で構成されています。この4つのコラボレートにより、研究ノウハウの共有が効率よく行え、香料の新しい可能性を生み出し続けています。

小川香料の研究スタッフは『香り』のアーティストでありサイエンティストです。

■生産部門■

工場は、研究所で開発された『香り』や『味』を、その担当研究所からの情報や処方(レシピ)指示により生産するという、最終段階の重要な役割。小川香料ではさまざまなジャンルの『香り』について、最新設備とシステムを用い、大量生産から少量多品種の生産まで製品づくりを行っています。

お客様からの受注に迅速に対応するため、営業・研究・生産の3つのスタッフによる緻密なコミュニケーションは欠かせません。また生産現場において、常に高品質の製品を提供することは当然のこと。そのための品質チェックにも最善の注意を払っています。検査セクションでは機器分析のほかに、人間の五感を使う官能検査を行っています。

小川香料の生産スタッフは『香り』のエンジニアでありテクノロジストです。

時代の変遷や、ニーズの変化に応じて、新しい提案を積極的に行ってきた小川香料。

これからもそのスピリットを持ちつつ「技術の小川」として躍進していきます！

➡Vol.4 は「小川香料の挑戦」です

Vol.4 の送付を希望されない場合は、当メールへの返信にてその旨ご連絡ください。



➡Vol.2 クイズ回答：アステカ王国

✉ 小川香料人事部では会社紹介メールに対する感想をお待ちしています。当メールへの返信にてお寄せ下さい。

Question!

すっきりした飲み口と心地よい爽快感で、私たちにとってはすっかり馴染み深い炭酸飲料。日本の炭酸飲料の元祖でもある「ラムネ」の名称はもともと「レモン水」を意味する「レモネード」が訛って使われたものです。さて、その炭酸飲料が日本に最初に伝わったのは江戸時代末期の1853年の事といわれていますが、この最初の炭酸飲料を日本に持ってきた外国人は誰だったのでしょうか？突然やってきて徳川幕府を大慌てさせた「あの人」です。答えはVol.4で！



※バックナンバーはこちらを参照ください→ [Vol.1](#) [Vol.2](#)